

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 20 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3873600476		
法人名	有限会社 ファーストステップ		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地	喜多郡内子町平岡甲1 2 4 3 番地1 (電話) 0893-44-4555		
管理者	土居 洋子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 12 月 9 日	評価確定日	平成 21 年 1 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 11 月 18 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	14.7 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円
敷金	有( )円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 18 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	3 名	要介護 2	4 名
要介護 3	8 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 85.9 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、見渡すと山々に囲まれ四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境の中に建っている。利用者は広く明るい居間兼食堂などでゆったりと過ごし、大きく設計された窓から見える外の景色を楽しんでいる。職員は、基本理念を踏まえ各自の課題を具体的目標として挙げ、ケアの実践に日々取り組んでいる。利用者の希望や意向を大切に、職員全員が意見を出し合って介護計画を作成し、毎月モニタリングを行い、定期的に、また変化に応じて現状に即した計画を作成している。運営者及び管理者は、職員全員に段階に応じた研修受講を勧め、職員は意欲的に受講して報告を全員で共有している。地区の同業者とネットワークを結び、講演会や運動会、相互交流などを通してサービスの質の向上を図っている。

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
評価の結果を活かし、基本理念を踏まえた具体的目標の作成、職員全員の研修受講の支援、災害対策として地域の自主防災組織に加えてもらうなどの改善に取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
職員全員で作成に取り組み、管理者がまとめている。理念を踏まえて職員各自が日々のケアを振り返り、課題を具体的目標として挙げ、理念の実践に取り組んでいる。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
町担当者、地域代表者、家族等をメンバーとして、2か月ごとに開催している。ホーム行事や利用者の病院受診状況のデータなどを議題とし、また地域の同業者と合同で実施する講演会や運動会のための協議を行い、意見や要望を運営に反映させている。今後はさらにテーマに応じて警察、消防署、ボランティアなどにも参加してもらえるような工夫を期待する。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の訪問時には職員から声をかけ、お茶をすすめるなどしながら話しやすい雰囲気になるよう配慮し、意見や要望、苦情を出してもらうよう努めている。玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に苦情申立て先を明記し、入居時に説明している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
自治会に特別会員として加入しており、地域の情報を得たり、神楽や祭りに参加したり、バザーに参加して飲み物を提供したり、町内の花一杯運動の一環としてホーム前に植えた花の世話をするなど、自治会の一員としての活動を積極的に行っている。保育園児や小学生の訪問を受け入れたり、演奏や踊り等のボランティアを受け入れ、地元の方との交流、連携に努めている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名) 1Fユニット

記入者(管理者)  
氏名 土居 洋子

評価完了日 平成 20 年 10 月 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切にし、自分らしさを保ちながら、自由で心豊かな暮らしが送れるよう事業所独自の理念を創りあげている。  (外部評価) 開設当初からの理念であるが、利用者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ独自のものとなっており、玄関にも掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者が心身共に健やかで朗らかな生活が送れるよう、日々のふれあいの中で気付いたことを毎月の会議の議題に取り入れ、今何を望まれているのか等小さなことでも、積極的に意見を出し合いながら意思統一を図り取り組んでいる。  (外部評価) 管理者と職員は、ミーティング及びカンファレンスで日々のケアを振り返り、理念を踏まえて各自の課題を具体的目標として1か月から3か月ごとに挙げ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	※	職員全員が理念に向かってのケアが出来る様、目標を立て努力し、ケアの質の向上を図りたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族に対しては、入居契約時に理念の説明を行い、自治会長・民生委員の方々には運営推進会議等時折に触れ話し合っている。また、玄関口に理念を掲示し訪問して頂いた方に何時でも見て頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日頃から気持ちの良い挨拶を心掛けている。又買い物や散歩時、顔見知りになり気軽に声を掛け合ったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ボランティアグループや小学生の来訪、保育所の園児が散歩時立ち寄ってくれたり地域の人々の交流に努めている。また特別会員として自治会に受け入れてもらい、地域の美化運動の一環としてのホーム前の花の手入れや地域主催の祭り参加・獅子舞や亥の子等受け入れ地域活動に参加している。  (外部評価) 自治会に特別会員として加入しており、地域の情報を得たり、花一杯運動の一環としてホーム前の花の世話をしたり、祭りやバザーに参加して飲み物を提供するなどしている。また、保育園児や小学生の訪問を受け入れたり、ギター演奏、紙芝居や読み聞かせのボランティアの訪問もあり、地元の方との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスや運営推進会議等で話し合いは行っているが、具体案は現在、模索中です。	※	地域の方々と、今以上の話し合いや相談を持ちかけ、様々な意見を聞いて取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で自己評価に取り組み、その内容を自分で読み、確認する事で日々の生活の中でどうなのか振り返る事ができたり、確認する事ができた。今後一人一人の思いをケアに活かし取り組みたい。  (外部評価) 職員全員が自己評価に取り組み、管理者がまとめている。職員は、各自が日々のケアを行う上での具体的目標を決めている。外部評価は、その結果を活かし、理念を踏まえた具体的目標の作成、職員全員の研修受講の支援、災害対策として地域の自主防災組織への加入などに取り組んでいる。	※  ※	「もっとよくしていきたい」という思いを大切に「これまで」「いま」「これから」の姿を皆で確かめ合い取り組みたい。  改善計画表を作成し、評価の結果を活かした課題の整理を計画的に進め、その状況を記録するなどの取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者やサービスの実際、行事報告や話し合い等を行っている。又内子町グループホーム合同の運動会や研修会にホーム関係者や地域住民に参加して頂き地域密着型サービスとして質向上につなげると共に、グループホームのあるべき姿や存在意義等を広く地域に周知啓発し、「地域で支えあう」地域ネットワーク作りに取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 町担当者、地域代表者、家族等をメンバーとして2か月ごとに開催している。ホームの行事、利用者の受診状況報告等を議題に取り上げ、また地区の同業者と合同で開催する講演会や運動会についての協議などを行っている。出された意見や要望については、サービスの向上に活かしている。	※	会議の内容によっては警察、消防、近隣住民、ボランティアグループ等にも参加を呼びかけて意見をもらったり、ホーム運営に関しての協力が得られるよう働きかけるような取り組みが期待される。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等以外でも、ケアプランや介護保険制度等での不明な点やホームの運営上ことを気軽に相談でき、また、内子町担当者も真摯に対応していただいている。介護の質の向上に向けて、研修会等の案内も随時していただいている。 <hr/> (外部評価) ホームのすぐ近所に町役場があり、介護保険制度に関することや書類の書き方などを教えてもらうなど、行き来する機会を多くもつようにしている。かつては民生委員の見学を受け入れたこともあり、町行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日々の話し合いやカンファレンス等で話し合いながら、個々の必要性を検討し、必要な時は何時でも対応できるよう取り組んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケア・言葉賭けの一つ一つについて虐待になっていないか見つけ直し、職員間で日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換し、虐待を見過ごさないよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて、十分納得していただく説明に心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者に関わる際に、小さな意見や不満、苦情に対して耳を傾け、カンファレンス等で話し合い問題解決にあたっている。また、玄関口に意見箱を設け、利用者以外の方々の意見も聞くようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 請求書を送る際、日々の生活や行事等に参加している時の写真やコメント(手紙)を同封して、暮らしぶりがわかるように努めている。また、金銭管理は出納帳をつけ、領収書を必ず請求書送付時に添付している。  (外部評価) 毎月、請求書、日々の生活の様子を写した写真、担当職員の手紙と一緒に送り、利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に知らせている。金銭状況についても領収書を送って報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が来られた時、利用者の現状報告をする際、意見等を聞くように職員全員が周知徹底できている。また、玄関口に意見箱を設け、意見や不満、苦情を受け付けている。  (外部評価) 家族の訪問時には職員から積極的に声をかけてお茶をすすめるなどしながら話しやすい雰囲気になるよう工夫して、意見や苦情を話してもらえよう配慮している。重要事項説明書に苦情申立て先を明記し、入居時に説明するとともに、玄関には意見箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見や提案等は、カンファレンス等で話し合いを設けている。また、個別にヒアリングをして、意見を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者・ユニットリーダーを中心に、勤務の調整をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) あくまでも利用者本位に考え、必要最低限に抑えることに努めている。退職に関しても、利用者の精神状態を第一に考え、スムーズな引継ぎが出来るよう新規採用者と離職者の重複勤務等考慮している。  (外部評価) 異動や離職の際には新旧職員が1か月程度は一緒に利用者に関わるなど、利用者へのダメージを防ぐような工夫をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修については、管理者を中心にカンファレンス等で勉強会を行い、外部研修については、愛媛県GH連絡協議会等の研修をパート職員を含め受講している。受講者は内容を報告し共有している。  (外部評価) 運営者及び管理者は情報を職員に知らせ、段階に応じて出張扱いで受講できるようにしている。職員は各自の希望の研修も含めて意欲的に受講している。受講した者はカンファレンスで報告し、全員で研修内容を共有している。また、緊急時の対応について内部で研修を実施することにしている。	※	

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会等を通じて、他グループホームとの相互交流を行っている。また、愛媛県グループホーム連絡協議会の相互評価事業にも参加し、相互訪問を行い、新しい気付きや発見をすることで、ホーム内で他職員にフィードバックしている。  (外部評価) 地区のグループホーム連絡会を結成し、月1回の管理者会、職員相互の見学、センター方式等の勉強会などを行い、また講演会や運動会などを合同で行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。県グループホーム連絡協議会の相互評価事業にも参加している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員が個別に抱えている悩み・相談事は、随時ヒヤリング等で話しを聞く体制にしている。また、適宜、食事会を行い、職員間のコミュニケーションを円滑になるよう努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年2回人事考課を行い、自己評価、上司評価をし、自分のできていること、また、改善しなければならないことを検討している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問して本人の不安なこと・求めていること等をよく聴き、納得いくよう話し合うようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事・不安なこと・求めておられる事をよく聴き、まず必要としている支援を見極めながら話し合い、受け止めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人・家族と十分に話し合い、本人が自宅での暮らしを希望し、グループホームに入居するよりも在宅でのケアサービスを調整して自宅で暮らし続けた方がいいと考えられる段階の場合は、まずは家族やケアマネジャー等と在宅で暮らす可能性を話し合うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居をされる前に、本人・家族に視察に来て頂いたり、場合によっては体験に来て頂いたりし、職員や他の利用者、場の雰囲気を味わってもらい、本人が安心し、納得した上でサービスを開始している。  (外部評価) 入居前に本人及び家族に見学してもらい、時には体験利用をしてもらうなど、相談しながら徐々に馴染めるよう工夫している。帰宅願望の強い利用者には、家族に頻繁に来訪してもらったり、馴染みの家具を持ち込んでもらい、雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に職員は「同じ目線で自然に話をする」ことを心掛け、対等であるという事をしっかりと意識して取り組んでいる。食事の味付けやこつ、会話の中では地域の慣わしや昔の話を色いろと教わっている。一緒に過ごす中で経験豊かな考え方や見方が勉強になり「ありがとう」を大切にしている。  (外部評価) 職員は利用者と一緒に食事や作業をしながら、利用者の経験を通しての教訓を教わったり、感謝や労わりの声をかけてもらい、支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に近況報告だけに留まらず、家に居られた頃の様子や要望等お伺いしながら「本人様が自分らしく心地よく過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。又定期的に電話や手紙でも連絡し関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 事前調査や面会時等本人や家族の話をよく聴き、理解に努めている。又面会時情報交換したり定期的に電話や手紙で連絡している。毎月の請求書を送付する時に写真を添付し、日常の様子を伝える等している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出の際、自宅の付近をドライブしたり、小学校の運動会や自治会主催の催し物見学・参加等状態に応じ実施している。また入所前に住まわれていた地域訪問を行い、馴染みのお店での外食や買い物を楽しんで頂き昔馴染の方との交流も図って頂いている。	※	以前住まわれていた地域訪問継続し馴染みのお店での外食や買い物、馴染みの方との交流や四季折々の自然を満喫して頂いている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) トラブル時はもちろん喜び等の場合も職員が利用者の中に入り、一緒に解決したり喜びあったりすることで、利用者同士の関わりが深まり孤立が無いよう勤めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けし、出きる限り継続的な関わりが保てるようしている。又困っている事など相談に乗りアドバイスもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で本人の思いを汲み取り、希望・意向の把握に努め出きる限り意向にそうよう努めている。言葉での表現が困難な利用者は、表情やしぐさ等観察しながら努めている。  (外部評価) 日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聞き、把握が困難な場合は本人の表情やしぐさを見ながら本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人・家族との話し合いの中で、1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや、医療機関との連携により心身状態を把握し、1人ひとりに寄り添いゆっくり待つ・見守る大切さを常に抱いて、出来る力を見極めその人らしい暮らし方を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い論議しながら、ケアチェック・モニタリングを基に、今利用者が一番楽しみにされている事は何か、一番望まれている事は何かを考え、よりよく暮らせるように介護計画を作成している。  (外部評価) ADL（日常生活基本動作）状況書や看護添書等をもとに、本人の希望等を大切に基本計画を立て、毎月のモニタリングを行っている。サービス担当者会議やカンファレンスで職員全員で話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。	※	出来ていないことばかりを論議するのではなく、利用者様が快と思われる事・望まれている事を可能にするにはどうすればよいかを考え介護計画に取り入れている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化に応じ、臨機応変にみなおしている。又月に1回モニタリングを実施しながら、確認している。3ヶ月に1回見直しを行い、見直し以前に対応できない変化が生じた場合はその都度現状に応じた計画を作成している。  (外部評価) 職員は、介護記録や日誌の情報から利用者の健康状態を確認し、変化に応じてその都度、また安定している場合は3か月ごとに見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の介護記録・日誌・排泄チェック表・バイタル・食事水分量のチェック表を記録し、利用者の状態の変化や重要事項等は赤・青ペンを活用して、注意しやすくしている。介護計画をファイルし確認し、1か月に1回モニタリングしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 今のところ、本人や家族の状況やその時々々の要望はないが、必要に応じ柔軟な支援をしていきたい。  (外部評価) 郵便局や病院、買い物への同行、衣類の入れ替えのための帰宅支援など、本人や家族の状況や要望に応じて柔軟に支援している。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、多機能性を活かした支援について研修等参加している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ地域資源と協働しながら支援したい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域資源の発掘や関わりに努め、研修等参加している。傾聴ボランティア等発掘したい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしたい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との関わりに努めるようにしている。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働したい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域包括支援センターとの関わりに努め、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について研修にも参加したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医との連帯により、本人・家族の希望時や異常時には早期往診・早期受診ができるよう支援している。  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を大切に、結果を受診ノートに記録し、家族に報告している。協力医療機関からは月2回の往診があり、適切な医療が受けられるように支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関との連帯を密に取り、その都度相談している。状況に応じ早期受診の支援をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と日々相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に面会に行き、状態を把握し、早期退院に向けて医療機関と話し合っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ホームの指針を書面にて利用者、家族に同意を得ている。また、職員や主治医にも、指針の周知徹底は出来ている。家族とは主治医の意見やホームの方針も交え必要に応じ話し合っている。  (外部評価) 重度化した場合における対応指針を作成し、入居時に本人及び家族に説明して、話し合いの内容を記録し、同意を得ている。看取りの経験はないが、繰り返し話し合いを行い、全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関のDrと重度化した場合の指針を共有し、よりよい終末期を迎える支援ができるように取り組んでいる。また家族との話し合いの場を持ちお互いの意向の確認をしあっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者や家族と十分に話し合い、納得して退去できるようにしている。また、転居先で生活に困らないよう、利用者や家族の了解を得て、情報提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度を丁寧に接するよう心掛けている。また、個々の利用者の生活歴を大切にしマナーにも気をつけている。記録等の個人情報の取り扱いにも秘密保持を厳守し充分気をつけている。  (外部評価) プライバシーの確保についてはミーティングで話し合い、職員の人事評価の項目にも取上げている。職員は、トイレ誘導時や声かけの際など、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう気をつけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日々のスケジュールは出きるだけ利用者様と話し合っている。また、コミュニケーションを多くとる事により意思表示が出来やすい雰囲気作りを行い、一緒に考え希望が言えるように、ゆっくりした態度で接している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴や食事等利用者のペースを尊重し、自由に生活できるよう心掛けているが、訴えの無い利用者様は、時として職員のペースでことを進めてしまいがちである。  (外部評価) 起床時間を各自のペースに合わせてたり、食事で主食の選択ができるようにしたり、入浴時間を柔軟に対応するなど、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援をしている。	※	やさしく、ゆったりと接し表情やしぐさでの訴えも見逃さないよう細やかな心遣いで、1人ひとりのペースを大切に心掛けている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 季節に合った衣服を着用して頂いている。男性の髭剃りや食後をはじめ、口の周囲も綺麗にぬぐっている。1か月に1回出張理美容院の利用を支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備・調理等利用者様と一緒にやっている。又職員は利用者様と同じ食事をサポートしながら食べており、会話を楽しんでいる。  (外部評価) 利用者は調理の下ごしらえや味付け、盛り付けなどに力を発揮してもらい、職員は会話しながら利用者と一緒に食事をして、食事を楽しむことができるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が希望されるコーヒーや熱いお茶、季節により麦茶やアイスコーヒー等毎日お出しし、楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェックにより排泄パターンを把握し、個々に合った支援をしている。出きる限り自立にむけ、オムツ・紙パンツ・布パンツと使い分けしている。排泄の訴えが無い利用者様も時間をみてトイレ誘導し、出きるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 体調を見ながら、出きる限り本人の希望の時間にゆっくりと入って頂けるよう対応している。少しずつ身体機能が低下しており、リフトを設置している。 <hr/> (外部評価) 週2回から3回、清拭も含めた入浴を基本にしているが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。入浴の苦手な利用者には声かけを工夫するなどして入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前より眠剤等を服用している方はいる。出きる限り、日中の生活に注目し、睡眠パターンを大切にしている。又入眠出来ない方は職員が対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 以前はどんな事をされていたのだろうということをよく考えながら職員同士よく話し、その中で食事の下準備・調理・洗濯物畳み・掃除・園芸等本人の力を見極めながら、その方が今までされてきた事で楽しめる事を楽しんで頂けるよう支援している。 <hr/> (外部評価) おやつのおはぎ作り、畑での季節の野菜づくりや洗濯たたみなど、できることに力を発揮してもらっている。誕生会、菜の花祭り、花火見物、そうめん流しなど、季節ごとのイベントを企画したり、利用者の出身地へのドライブや買い物など、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いの管理ができる利用者、支援の必要な利用者等個々の利用者の力量に応じて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物等日々の生活の中に取り入れている。又奥様が他のグループホームに入居なさっており、いま離れ離れになっている利用者様を、こちらからお連れして面会したり、あるいは奥様のほうから来て頂いたりして団欒の時間を楽しんで頂けるようにしている。  (外部評価) ホームの庭でおやつを食べたり、周辺を散歩するなど、戸外に出て外気に触れる機会を多くもてるよう工夫している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 以前住まわれていた地域へ、ドライブし自宅付近の馴染みの飲食店にて外食し、昔なじみの方との触れ合いもあり、喜ばれている。また個別に家族と外出や外食される方も有る。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 何時でも本人希望される時に電話をかけたり、手紙のやり取りができる。又取り次ぎを希望される時は、間に入り意思疎通ができるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時、職員から気持ちの良い挨拶や声掛けを心掛けている。又面会時間は決めておらず、何時でも訪問して頂けるようにしている。居室・居間等好きな所で過ごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々のケアの中で職員間で確認しながら、拘束の弊害を正しく理解し、拘束の無いケアを実践している。	※	身体拘束に関してのより深い理解の為に研修に参加し、所内報告・勉強会を行い職員全員で共有している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 自由な生活を支え、利用者や家族がスムーズに生活できるよう、鍵は掛けていない。利用者の居場所は職員が随時確認している。  (外部評価) 日中は玄関に鍵をかけていない。現在は、外出傾向のある利用者がないこともあり、話し合った上でセンサーもはずしている。	※	ホーム脇は車道でもあり、利用者の安全を確保するためにも、日頃から近隣住民や交番等に協力を依頼しておくことを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は職員間の「報告・連絡・相談」を密にし1人一人の所在確認・安否確認をしている。又夜間は眠りの妨げにならない様1時間毎の巡視を行い安否確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、利用者の目を注意が必要な物品からそらす工夫をしながら整理整頓に努め危険防止に取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 拘束なく事故防止ができるよう、ベッドからの転倒の恐れがある時は、ベッドを低くしベッド下にマットレスを敷く等、1人ひとりの状態に応じた対処法を職員全員で話し合い、御家族の同意を得、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に救命救急蘇生術の研修を行っている。また、協力医療機関のDrにも、適宜指導していただいている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的（年1回）に防災時避難訓練を行っている。地域の人々にも、日頃より協力体制をお願いしている。  (外部評価) 緊急連絡網を作成し、毎年1回防災避難訓練を行い、また夜間想定も含めて2回の自主訓練も実施している。消防署直通の火災報知器等を設置している。地区の自主防災組織に加入したことで、今後は地域の協力が得られるようになっている。	※	地域の方々に、協力体制のお願いと認識もして頂いているが、地域の方と一緒に避難訓練を実施するまでに至っておらず、今後実現できるようにしていきたい。  災害対応マニュアル等を作成し、訓練がより実践的なものとなるような工夫を期待したい。また、訓練に近隣住民にも参加してもらうなど、地域とともに災害対策に取り組むことも期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 必要に応じ主治医のDrと相談しながら、家族と話し合いの場を持ち一緒に考えている。又面会時や電話時等にも報告し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルのチェックや、様子観察の徹底により異変の早期発見に努め、協力医療機関との連帯を密に取り、その都度指示を仰ぎ早期往診・受診等迅速な対応を心掛けている。申し送りやカルテ・受診ノートの活用等にて職員間の速やかな情報の共有や対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示通り服用するよう薬の説明書をファイルし、何時でも確認できるようにしている。服薬時は日付・氏名・服用方法等の確実な確認を行い、服用後の症状の変化等にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) なるべく下剤に頼らず、日々のメニューの工夫や牛乳・食物繊維の摂取、身体を動かすレクリエーションの取り組みに努め自然排便に努めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、1人一人の能力に応じ、声掛けや介助しながら行っている。適宜歯科医の受診援助も行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事・水分の摂取量チェックを行いながら、栄養バランス・季節の食品・塩分等カロリーを考慮しながら支援している。水分量は1日700ml～1200mlを目安、食事は1人1人の状態に合わせ、器等工夫し満足のいくよう考慮し嚥下能力に合わせ形態の工夫も行っている。  (外部評価) 献立は栄養士が立て、食事及び水分摂取量を記録して、栄養バランスと必要量の確保に努めている。とろみ食、刻み食など調理に工夫し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、それに沿って行っている。うがい・手洗い・消毒の徹底をはじめ、必要に応じての手袋・マスクの使用やホーム内の消毒等での掃除や洗濯対応している。インフルエンザワクチンの接種行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は、衛生手順に消毒や洗浄を組み込み実施している。定期的な冷蔵庫の掃除や食品管理・ゴミ処理もきちんと行っている。食材はできる限り、その日の分をその日の朝に調達している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入り口はゆったりとし、草木を植えている。表示も誰にでもわかるよう大きく目に付きやすく表示している。建物周辺には芝生や草花があり、明るく親しみやすい雰囲気である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具類は家庭的なものを使用し、最近の行事時の写真等を飾ったり、折々の季節の花を生けたりしている。テレビの音等は耳障りでない様注意し、光は状態に応じブラインドで調節している。 <hr/> (外部評価) 玄関や廊下は広く、車いすでの移動が容易で、低い位置に手すりを配して安全である。浴室やトイレも広く清潔で、気になる匂いもない。利用者はくつろぎながら居間にある大きい窓から外の景色を眺めることができる。利用者の手作り作品やイベントの時の写真を飾り、生活感を取り入れながら居心地よく過ごせるように工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ・椅子・テーブル等、各所に配置しており、大きく窓をとり開放感がある。思い思いにゆっくりと時間が過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンス・冷蔵庫・絵・写真・人形等愛着のある物を持ってきて頂いている。配置も自由に居心地よく過ごせるよう変えてもらっている。 <hr/> (外部評価) 冷蔵庫、テレビ、タンス、本人や家族の写真、人形など本人の使い慣れたものや好みの物をそれぞれ持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気は適宜しており、臭いにも気をつけている。冷暖房の温度調節も、冷やし過ぎや暖め過ぎが無いよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部はバリアフリーにて、手摺り・浴室マットの滑り止め・洗面手洗いの椅子の設置・浴室のベンチ等を設置し安全に活動できるよう工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室は、よく見える大きな字で名札を掛け、利用者様の状態に応じりボンや飾りで目印を付けている。トイレや風呂場等は解り易いよう図入りにて目線の位置に表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周りやベランダには、花壇や家庭菜園があり、季節感や開放感を楽しみながら草引きや水遣り等お世話される。収穫できた野菜は食卓に出し、達成感や満足感を味わって頂いている。又玄関前にはベンチを置き、日光浴やレクレーションを楽しんで頂いている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の訴えや、家族の意向等傾聴しながら、各個人の性格等考慮し日々努めている。自分の言葉で表現できなかつたりする方の思いや意向の把握は本当に難しいが表情や動作の変化等常に本人の思いに関心を寄せるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつの時間・入浴時・食事準備や洗濯物たたみ等利用者様と職員は話をし合いながらゆったりと楽しんでいる。又入浴時・手伝い時等には1対1でのコミュニケーションもとれている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その人の体調、その時の天気やそこにある物など、もののながれや時間の流れに沿って、その時々合った暮らし方をされている。ただ、意思表示の難しい方は職員が気をつけてはいるが、とすればホームの都合でペースが決まることもある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者1人ひとり、今までされて来た事や楽しいと思われることを本人の力を見極めながらお膳立てをしたり、黒子のサポートに十分配慮することにより、生き生きした表情や姿が見られる。意思表示の出来ない方や意欲が減退している方があり、ボート過ごされる方も見られる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩や買い物等日々の生活の中に取り入れている。又以前住まわれていた地域訪問を行い、馴染みの店での外食や買い物をし馴染みの方との交流もあった。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックや医療機関との連携により、異常の早期発見や早期往診・受診ができる。又訴え時には主治医の指示を仰ぎ対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛け・傾聴によりほぼ落ち着かされている。職員間で、きずいた事を積極的に意見を出し合いながら意思統一を図り取り組み対応することにより、安心して暮らされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に、情報交換や要望等を気軽に伝えたり、相談できるよう声掛けしている。定期的に電話や手紙でも連絡している。残念な事に面会に来られる方が減ってきている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の以前からの友人、近所の人、親戚、同級生などつながりのある人たちが訪問されるがお互いに高齢でもあり頻繁ではない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	内子町グループホーム合同の運動会や研修会にグループホーム関係者や地域住民に参加して頂き地域密着型サービスとして質向上につなげると共に、グループホームのあるべき姿や存在意義等を広く地域に周知啓発し、「地域で支えあう」地域ネットワーク作りに取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員1人ひとり、悩み等抱えてはいるが、仕事に入る時は利用者様のことを考え、仕事が終わったら仕事のことを忘れ、とプライベートはきっちり分けて公私混同しないように仕事に取り組むようにしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出きる限り利用者のニーズを把握し、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に、情報交換や要望等を気軽に伝えたり、相談できるよう声掛けしているが、本音で話して頂けているかが不安である。又、伝え方や言葉の足りなさで不満を感じられている方も居られるのではとも思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

個々の利用者の希望や状態に応じたサービスを職員全員で話し合い、安心して、自分らしく暮らし続けていけるよう取り組んでいる。今後も理念に基づいてケアが行えるよう人材育成等行いケアの質の向上を図っていく。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームあおぞら

(ユニット名) 2Fユニット

記入者(管理者)  
氏名 土居 洋子

評価完了日 平成 20 年 10 月 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者がこれまで培ってきた家族や地域社会との関係の継続を大切に、自分らしさを保ちながら、自由で心豊かな暮らしが送れるよう事業所独自の理念を創りあげている。  (外部評価) 開設当初からの理念であるが、利用者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、地域密着型サービスの役割を盛り込んだ独自のものとなっており、玄関にも掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 利用者が心身共に健やかで朗らかな生活が送れるよう、日々のふれあいの中で気付いたことを毎月の会議の議題に取り入れ、今何を望まれているのか等小さなことでも、積極的に意見を出し合いながら意思統一を図り取り組んでいる。  (外部評価) 管理者と職員は、ミーティング及びカンファレンスで日々のケアを振り返り、理念を踏まえて各自の課題を具体的目標として1か月から3か月ごとに挙げ、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	※	
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族に対しては、入居契約時に理念の説明を行い、自治会長・民生委員の方々には運営推進会議等時折に触れ話し合っている。また、玄関口に理念を掲示し訪問して頂いた方に何時でも見て頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日頃から気持ちの良い挨拶を心掛けている。又買い物や散歩時、顔見知りになり気軽に声を掛け合ったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ボランティアグループや小学生の来訪、保育所の園児が散歩時立ち寄ってくれたり地域の人々の交流に努めている。また特別会員として自治会に受け入れてもらい、地域の美化運動の一環としてのホーム前の花の手入れや地域主催の祭り参加・獅子舞や亥の子等受け入れ地域活動に参加している。  (外部評価) 自治会に特別会員として加入しており、地域の情報を得たり、花一杯運動の一環としてホーム前の花の世話をしたり、祭りやバザーに参加して飲み物を提供するなどしている。また、保育園児や小学生の訪問を受け入れたり、ギター演奏、紙芝居や読み聞かせのボランティアの訪問もあり、地元の方との交流に努めている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスや運営推進会議等で話し合いは行っているが、具体案は現在、模索中です。	※	地域の方々と、今以上の話し合いや相談を持ちかけ、様々な意見を聞いて取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で自己評価に取り組み、その内容を自分で読み、確認する事で日々の生活の中でどうなのか振り返る事ができたり、確認する事ができた。今後一人一人の思いをケアに活かし取り組みたい。  (外部評価) 職員全員が自己評価に取り組み、管理者がまとめている。職員は、各自が日々のケアを行う上での具体的目標を決めている。外部評価は、その結果を活かし、理念を踏まえた具体的目標の作成、職員全員の研修受講の支援、災害対策として地域の自主防災組織への加入などに取り組んでいる。	※   ※	「もっとよくしていきたい」という思いを大切に「これまで」「いま」「これから」の姿を皆で確かめ合い取り組みたい。  改善計画表を作成し、評価の結果を活かした課題の整理を計画的に進め、その状況を記録するなどの取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者やサービスの実際、行事報告や話し合い等を行っている。又内子町グループホーム合同の運動会や研修会にホーム関係者や地域住民に参加して頂き地域密着型サービスとして質向上につなげると共に、グループホームのあるべき姿や存在意義等を広く地域に周知啓発し、「地域で支えあう」地域ネットワーク作りに取り組んでいる。  (外部評価) 町担当者、地域代表者、家族等をメンバーとして2か月ごとに開催している。ホームの行事、利用者の受診状況報告等を議題に取り上げ、また地区の同業者と合同で開催する講演会や運動会についての協議などを行っている。出された意見や要望については、サービスの向上に活かしている。	※	会議の内容によっては警察、消防、近隣住民、ボランティアグループ等にも参加を呼びかけて意見をもらったり、ホーム運営に関しての協力が得られるよう働きかけるような取り組みが期待される。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等以外でも、ケアプランや介護保険制度等での不明な点やホームの運営上ことを気軽に相談でき、また、内子町担当者も真摯に対応していただいている。  (外部評価) ホームのすぐ近所に町役場があり、介護保険制度に関することや書類の書き方などを教えてもらうなど、行き来する機会を多くもつようになっている。かつては民生委員の見学を受け入れたこともあり、町行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日々の話し合いやカンファレンス等で話し合いながら、個々の必要性を検討し、必要な時は何時でも対応できるよう取り組んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケア・言葉掛けの一つ一つについて虐待になっていないか見つけ直し、職員間で日々の話し合いやカンファレンス等で意見交換し、虐待を見過ごさないよう注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に時間を掛けて、十分納得していただく説明に心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員は日々利用者に関わる際に、小さな意見や不満、苦情に対して耳を傾け、カンファレンス等で話し合い問題解決にあたっている。また、玄関口に意見箱を設け、利用者以外の方々の意見も聞くようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 請求書を送る際、日々の生活や行事等に参加している時の写真やコメント(手紙)を同封して、暮らしぶりがわかるように努めている。また、金銭管理は出納帳をつけ、領収書を必ず請求書送付時に添付している。  (外部評価) 毎月、請求書、日々の生活の様子を写した写真、担当職員の手紙と一緒に送り、利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に知らせている。金銭状況についても領収書を送って報告している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が来られた時、利用者の現状報告をする際、意見等を聞くように職員全員が周知徹底できている。また、玄関口に意見箱を設け、意見や不満、苦情を受け付けている。  (外部評価) 家族の訪問時には職員から積極的に声をかけてお茶をすすめるなどしながら話しやすい雰囲気になるよう工夫して、意見や苦情を話してもらえるよう配慮している。重要事項説明書に苦情申立て先を明記し、入居時に説明するとともに、玄関には意見箱を設置している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見や提案等は、カンファレンス等で話し合いを設けている。また、個別にヒアリングをして、意見を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整を努めている	(自己評価) 管理者・ユニットリーダーを中心に、勤務の調整をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) あくまでも利用者本位に考え、必要最低限に抑えることに努めている。退職に関しても、利用者の精神状態を第一に考え、スムーズな引継ぎが出来るよう新規採用者と離職者の重複勤務等考慮している。  (外部評価) 異動や離職の際には新旧職員が1か月程度は一緒に利用者に関わるなど、利用者へのダメージを防ぐような工夫をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修については、管理者を中心にカンファレンス等で勉強会を行い、外部研修については、愛媛県GH連絡協議会等の研修をパート職員を含め受講している。受講者は内容を報告し共有している。  (外部評価) 運営者及び管理者は情報を職員に知らせ、段階に応じて出張扱いで受講できるようにしている。職員は各自の希望の研修も含めて意欲的に受講している。受講した者はカンファレンスで報告し、全員で研修内容を共有している。また、緊急時の対応について内部で研修を実施することになっている。	※	パート職員を含めほぼ全員研修を受講することが出来た。また研修後はホーム内での報告を行い職員全員で共有している。職員自ら参加したいとの意思表示も出てきており、意欲向上している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡会等を通じて、他グループホームとの相互交流を行っている。また、愛媛県グループホーム連絡協議会の相互評価事業にも参加し、相互訪問を行い、新しい気付きや発見をすることで、ホーム内で他職員にフィードバックしている。  (外部評価) 地区のグループホーム連絡会を結成し、月1回の管理者会、職員相互の見学、センター方式等の勉強会などを行い、また講演会や運動会などを合同で行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。県グループホーム連絡協議会の相互評価事業にも参加している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員が個別に抱えている悩み・相談事は、随時ヒヤリング等で話しを聞く体制にしている。また、適宜、食事会を行い、職員間のコミュニケーションを円滑になるよう努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年2回人事考課を行い、自己評価、上司評価をし、自分のできていること、また、改善しなければならないことを検討している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査で書類を確認し、訪問して本人の不安なこと・求めていること等をよく聴き、納得いくよう話し合うようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事・不安なこと・求めておられる事をよく聴き、まず必要としている支援を見極めながら話し合い、受け止めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、本人・家族と十分に話し合い、本人が自宅での暮らしを希望し、グループホームに入居するよりも在宅でのケアサービスを調整して自宅で暮らし続けた方がいいと考えられる段階の場合は、まずは家族やケアマネジャー等と在宅で暮らす可能性を話し合うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居をされる前に、本人・家族に視察に来て頂いたり、場合によっては体験に来て頂いたりし、職員や他の利用者、場の雰囲気を味わってもらい、本人が安心し、納得した上でサービスを開始している。  (外部評価) 入居前に本人及び家族に見学してもらい、時には体験利用をしてもらうなど、相談しながら徐々に馴染めるよう工夫している。帰宅願望の強い利用者には、家族に頻繁に来訪してもらったり、馴染みの家具を持ち込んでもらい、雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に職員は「同じ目線で自然に話をする」ことを心掛け、対等であるという事をしっかりと意識して取り組んでいる。食事の味付けやこつ、会話の中では地域の慣わしや昔の話を色いろと教わっている。一緒に過ごす中で経験豊かな考え方や見方が勉強になり「ありがとう」を大切にしている。  (外部評価) 職員は利用者と一緒に食事や作業をしながら、利用者の経験を通しての教訓を教わったり、感謝や労わりの声をかけてもらい、支え合う関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 訪問時に近況報告だけに留まらず、家に居られた頃の様子や要望等お伺いしながら「本人様が自分らしく心地よく過ごして頂けるには・・・」と一緒に考えている。又定期的に電話や手紙でも連絡し関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 事前調査や面会時等本人や家族の話をよく聴き、理解に努めている。又面会時情報交換したり定期的に電話や手紙で連絡している。毎月の請求書を送付する時に写真を添付し、日常の様子を伝える等している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出の際、自宅の付近をドライブしたり、小学校の運動会や自治会主催の催し物見学・参加等状態に応じ実施している。また入所前に住まわれていた地域訪問を行い、馴染みのお店での外食や買い物を楽しんで頂き昔馴染の方との交流も図って頂いている。	※	以前住まわれていた地域訪問継続し馴染みのお店での外食や買い物、馴染みの方との交流や四季折々の自然を満喫して頂いている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) トラブル時はもちろん喜び等の場合も職員が利用者の中に入り、一緒に解決したり喜びあったりすることで、利用者同士の関わりが深まり孤立が無いよう勤めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 終了後も訪問して頂くよう声掛けし、出きる限り継続的な関わりが保てるようしている。又困っている事など相談に乗りアドバイスもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で本人の思いを汲み取り、希望・意向の把握に努め出きる限り意向にそうよう努めている。言葉での表現が困難な利用者は、表情やしぐさ等観察しながら努めている。 <hr/> (外部評価) 日々の関わりの中で利用者の意向や希望を聞き、把握が困難な場合は本人の表情やしぐさを見ながら本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や他機関のケアマネージャーとの情報交換、本人・家族との話し合いの中で、1人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや、医療機関との連携により心身状態を把握し、1人ひとりに寄り添いゆっくり待つ・見守る大切さを常に抱いて、出来る力を見極めその人らしい暮らし方を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見・要望を聞きながら、職員全員で意見を出し合い論議しながら、ケアチェック・モニタリングを基に、今利用者が一番楽しみにされている事は何か、一番望まれている事は何かを考え、よりよく暮らせるように介護計画を作成している。 <hr/> (外部評価) ADL（日常生活基本動作）状況書や看護添書等をもとに、本人の希望等を大切に基本計画を立て、毎月のモニタリングを行っている。サービス担当者会議やカンファレンスで職員全員で話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。	※	出来ていないことばかりを論議するのではなく、利用者様が快と思われる事・望まれている事を可能にするにはどうすればよいかを考え介護計画に取り入れている。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化に応じ、臨機応変にみなおしている。又月に1回モニタリングを実施しながら、確認している。3ヶ月に1回見直しを行い、見直し以前に対応できない変化が生じた場合はその都度現状に応じた計画を作成している。 <hr/> (外部評価) 職員は、介護記録や日誌の情報から利用者の健康状態を確認し、変化に応じてその都度、また安定している場合は3か月ごとに見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の介護記録・日誌・排泄チェック表・バイタル・食事水分量のチェック表を記録し、利用者の状態の変化や重要事項等は赤・青ペンを活用して、注意しやすくしている。介護計画をファイルし確認し、1か月に1回モニタリングしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 今のところ、本人や家族の状況やその時々々の要望はないが、必要に応じ柔軟な支援をしていきたい。  (外部評価) 郵便局や病院、買い物への同行、衣類の入れ替えのための帰宅支援など、本人や家族の状況や要望に応じて柔軟に支援している。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、多機能性を活かした支援について研修等参加している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ地域資源と協働しながら支援したい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域資源の発掘や関わりに努め、研修等参加している。傾聴ボランティア等発掘したい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしたい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との関わりに努めるようにしている。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今のところ本人の意向や必要性はないが、必要に応じ権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働したい。	※	必要時、速やかに対応出来るよう、地域包括支援センターとの関わりに努め、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について研修にも参加したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 希望のかかりつけ医との連帯により、本人・家族の希望時や異常時には早期往診・早期受診ができるよう支援している。  (外部評価) 本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を大切に、結果を受診ノートに記録し、家族に報告している。協力医療機関からは月2回の往診があり、適切な医療が受けられるように支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関との連帯を密に取り、その都度相談している。状況に応じ早期受診の支援をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と日々相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に面会に行き、状態を把握し、早期退院に向けて医療機関と話し合っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ホームの指針を書面にて利用者、家族に同意を得ている。また、職員や主治医にも、指針の周知徹底は出来ている。家族とは主治医の意見やホームの方針も交え必要に応じ話し合っている。  (外部評価) 重度化した場合における対応指針を作成し、入居時に本人及び家族に説明して、話し合いの内容を記録し、同意を得ている。看取りの経験はないが、繰り返し話し合いを行い、全員で方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関のDrと重度化した場合の指針を共有し、よりよい終末期を迎える支援ができるように取り組んでいる。また家族との話し合いの場を持ちお互いの意向の確認をしあっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 利用者や家族と十分に話し合い、納得して退去できるようにしている。また、転居先で生活に困らないよう、利用者や家族の了解を得て、情報提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者を尊重し、言葉や態度を丁寧に接するよう心掛けている。また、個々の利用者の生活歴を大切にしマナーにも気をつけている。記録等の個人情報の取り扱いにも秘密保持を厳守し充分気をつけている。  (外部評価) プライバシーの確保についてはミーティングで話し合い、職員の人事評価の項目にも取上げている。職員は、トイレ誘導時や声かけの際など、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう気をつけている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日々のスケジュールは出きるだけ利用者様と話し合っている。また、コミュニケーションを多くとる事により意思表示が出来やすい雰囲気作りを行い、一緒に考え希望が言えるように、ゆっくりした態度で接している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴や食事等利用者のペースを尊重し、自由に生活できるよう心掛けているが、訴えの無い利用者様は、時として職員のペースでことを進めてしまいがちである。  (外部評価) 起床時間を各自のペースに合わせてたり、食事で主食の選択ができるようにしたり、入浴時間を柔軟に対応するなど、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援をしている。	※	やさしく、ゆったりと接し表情やしぐさでの訴えも見逃さないよう細やかな心遣いで、1人ひとりのペースを大切に心掛けている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 季節に合った衣服を着用して頂いている。男性の髭剃りや食後をはじめ、口の周囲も綺麗にぬぐっている。1か月に1回出張理美容院の利用を支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事準備・調理等利用者様と一緒にしている。又職員は利用者様と同じ食事をサポートしながら食べており、会話を楽しんでいる。  (外部評価) 利用者は調理の下ごしらえや味付け、盛り付けなどに力を発揮してもらい、職員は会話しながら利用者と一緒に食事をして、食事を楽しむことができるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が希望されるコーヒーや熱いお茶、季節により麦茶やアイスコーヒー等毎日お出しし、楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェックにより排泄パターンを把握し、個々に合った支援をしている。出きる限り自立にむけ、オムツ・紙パンツ・布パンツと使い分けしている。排泄の訴えが無い利用者様も時間をみてトイレ誘導し、出きるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 体調を見ながら、出きる限り本人の希望の時間にゆっくりと入って頂けるよう対応している。少しずつ身体機能が低下しており、リフトを設置している。  (外部評価) 週2回から3回、清拭も含めた入浴を基本にしているが、体調や希望に合わせて柔軟に対応している。入浴の苦手な利用者には声かけを工夫するなどして入浴を楽しめるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 以前より眠剤等を服用している方はいる。出きる限り、日中の生活に注目し、睡眠パターンを大切にしている。又入眠出来ない方は職員が対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 以前はどんな事をされていたのだろうかということをよく考えながら職員同士よく話し、その中で食事の下準備・調理・洗濯物畳み・掃除・園芸等本人の力を見極めながら、その方が今までされてきた事で楽しめる事を楽しんで頂けるよう支援している。  (外部評価) おやつのおはぎ作り、畑での季節の野菜づくりや洗濯たたみなど、できることに力を発揮してもらっている。誕生会、菜の花祭り、花火見物、そうめん流しなど、季節ごとのイベントを企画したり、利用者の出身地へのドライブや買い物など、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いの管理が出来る利用者、支援の必要な利用者等個々の利用者の力量に応じて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物等日々の生活の中に取り入れている。又奥様が他のグループホームに入居なさっており、いま離れ離れになっている利用者様を、こちらからお連れして面会したり、あるいは奥様のほうから来て頂いたりして団欒の時間を楽しんで頂けるようにしている。  (外部評価) ホームの庭でおやつを食べたり、周辺を散歩するなど、戸外に出て外気に触れる機会を多くもてるよう工夫している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 以前住まわれていた地域へ、ドライブし自宅付近の馴染みの飲食店にて外食し、昔なじみの方との触れ合いもあり、喜ばれている。また個別に家族と外出や外食される方も有る。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 何時でも本人希望される時に電話をかけた時、手紙のやり取りができる。又取り次ぎを希望される時は、間に入り意思疎通が出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問時、職員から気持ちの良い挨拶や声掛けを心掛けています。又面会時間は決めておらず、何時でも訪問して頂けるようにしている。居室・居間等好きな所で過ごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日々のケアの中で職員間で確認しながら、拘束の弊害を正しく理解し、拘束の無いケアを実践している。	※	身体拘束に関してのより深い理解の為に研修に参加し、所内報告・勉強会を行い職員全員で共有している。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 自由な生活を支え、利用者や家族がスムーズに生活できるよう、鍵は掛けていない。利用者の居場所は職員が随時確認している。  (外部評価) 日中は玄関に鍵をかけていない。現在は、外出傾向のある利用者がないこともあり、話し合った上でセンサーもはずしている。	※	ホーム脇は車道でもあり、利用者の安全を確保するためにも、日頃から近隣住民や交番等に協力を依頼しておくことを期待する。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は職員間の「報告・連絡・相談」を密にし1人一人の所在確認・安否確認をしている。又夜間は眠りの妨げにならない様1時間毎の巡視を行い安否確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、利用者の目を注意が必要な物品からそらす工夫をしながら整理整頓に努め危険防止に取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 拘束なく事故防止ができるよう、ベッドからの転倒の恐れがある時は、ベッドを低くしベッド下にマットレスを敷く等、1人ひとりの状態に応じた対処法を職員全員で話し合い、御家族の同意を得、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に救命救急蘇生術の研修を行っている。また、協力医療機関のDrにも、適宜指導していただいている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的（年1回）に防災時避難訓練を行っている。地域の人々にも、日頃より協力体制をお願いしている。  (外部評価) 緊急連絡網を作成し、毎年1回防災避難訓練を行い、また夜間想定も含めて2回の自主訓練も実施している。消防署直通の火災報知器等を設置している。地区の自主防災組織に加入したことで、今後は地域の協力が得られるようになっていく。	※	地域の方々に、協力体制のお願いと認識もして頂いているが、地域の方と一緒に避難訓練を実施するまでに至っておらず、今後実現できるようにしていきたい。  災害対応マニュアル等を作成し、訓練がより実践的なものとなるような工夫を期待したい。また、訓練に近隣住民にも参加してもらおうなど、地域とともに災害対策に取り組むことも期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 必要に応じ主治医のDrと相談しながら、家族と話し合いの場を持ち一緒に考えている。又面会時や電話時等にも報告し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルのチェックや、様子観察の徹底により異変の早期発見に努め、協力医療機関との連帯を密に取り、その都度指示を仰ぎ早期往診・受診等迅速な対応を心掛けている。申し送りやカルテ・受診ノートの活用等にて職員間の速やかな情報の共有や対応をしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが見ている薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示通り服用するよう薬の説明書をファイルし、何時でも確認できるようにしている。服薬時は日付・氏名・服用方法等の確実な確認を行い、服用後の症状の変化等にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) なるべく下剤に頼らず、日々のメニューの工夫や牛乳・食物繊維の摂取、身体を動かすレクレーションの取り組みに努め自然排便に努めている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、1人一人の能力に応じ、声掛けや介助しながら行っている。適宜歯科医の受診援助も行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事・水分の摂取量チェックを行いながら、栄養バランス・季節の食品・塩分等カロリーを考慮しながら支援している。水分量は1日700ml～1200mlを目安、食事は1人1人の状態に合わせて、器等工夫し満足のいくよう考慮し嚥下能力に合わせて形態の工夫も行っている。  (外部評価) 献立は栄養士が立て、食事及び水分摂取量を記録して、栄養バランスと必要量の確保に努めている。とろみ食、刻み食など調理に工夫し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、それに沿って行っている。うがい・手洗い・消毒の徹底をはじめ、必要に応じての手袋・マスクの使用やホーム内の消毒等での掃除や洗濯対応している。インフルエンザワクチンの接種行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理用具は、衛生手順に消毒や洗浄を組み込み実施している。定期的な冷蔵庫の掃除や食品管理・ゴミ処理もきちんと行っている。食材はできる限り、その日の分をその日の朝に調達している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 入り口はゆったりとし、草木を植えている。表示も誰にでもわかるよう大きく目に付きやすく表示している。建物周辺には芝生や草花があり、明るく親しみやすい雰囲気である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具類は家庭的なものを使用し、最近の行事時の写真等を飾ったり、折々の季節の花を生けたりしている。テレビの音等は耳障りでない様注意し、光は状態に応じブラインドで調節している。  (外部評価) 玄関や廊下は広く、車いすでの移動が容易で、低い位置に手すりを配して安全である。浴室やトイレも広く清潔で、気になる匂いもない。利用者はくつろぎながら居間にある大きい窓から外の景色を眺めることができる。利用者の手作り作品やイベントの時の写真を飾り、生活感を取り入れながら居心地よく過ごせるように工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ・椅子・テーブル等、各所に配置しており、大きく窓をとり開放感がある。思い思いにゆっくりと時間が過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンス・冷蔵庫・絵・写真・人形等愛着のある物を持ってきて頂いている。配置も自由に居心地よく過ごせるよう変えてもらっている。  (外部評価) 冷蔵庫、テレビ、タンス、本人や家族の写真、人形など本人の使い慣れたものや好みの物をそれぞれ持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気は適宜しており、臭いにも気をつけている。冷暖房の温度調節も、冷やし過ぎや暖め過ぎが無いよう気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内部はバリアフリーにて、手摺り・浴室マットの滑り止め・洗面手洗いの椅子の設置・浴室のベンチ等を設置し安全に活動できるよう工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室は、よく見える大きな字で名札を掛け、利用者様の状態に応じリボンや飾りで目印を付けている。トイレや風呂場等は解り易いよう図入りにて目線の位置に表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周りやベランダには、花壇や家庭菜園があり、季節感や開放感を楽しみながら草引きや水遣り等お世話される。収穫できた野菜は食卓に出し、達成感や満足感を味わって頂いている。又玄関前にはベンチを置き、日光浴やレクレーションを楽しんで頂いている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらい 評価) 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんど掴んでいない	利用者の訴えや、家族の意向等傾聴しながら、各個人の性格等考慮し日々努めている。自分の言葉で表現できなかつたりする方の思いや意向の把握は本当に難しいが表情や動作の変化等常に本人の思いに関心を寄せるよう努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつの時間・入浴時・食事準備や洗濯物たたみ等利用者様と職員は話をし合いながらゆったりと楽しんでいる。又入浴時・手伝い時等には1対1でのコミュニケーションもとれている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その人の体調、その時の天気やそこにある物など、もののながれや時間の流れに沿って、その時々合った暮らし方をされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者1人ひとり、今までされて来た事や楽しいと思われることを本人の力を見極めながらお膳立てをしたり、黒子的なサポートに十分配慮することにより、生き生きした表情や姿が見られる。意思表示の出来ない方や意欲が減退している方があり、ボート過ごされる方も見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩や買い物等日々の生活の中に取り入れている。又以前住まわれていた地域訪問を行い、馴染みの店での外食や買い物をし馴染みの方との交流もあった。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックや医療機関との連携により、異常の早期発見や早期往診・受診ができる。又訴え時には主治医の指示を仰ぎ対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛け・傾聴によりほぼ落ち着かされている。職員間で、きずいた事を積極的に意見を出し合いながら意思統一を図り取り組み対応することにより、安心して暮らされている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時に、情報交換や要望等を気軽に伝えたり、相談できるよう声掛けしている。定期的に電話や手紙でも連絡している。残念な事に面会に来られる方が減ってきている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の以前からの友人、近所の人、親戚、同級生などつながりのある人たちが訪問されるがお互いに高齢でもあり頻繁ではない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大に増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	内子町グループホーム合同の運動会や研修会にグループホーム関係者や地域住民に参加して頂き地域密着型サービスとして質向上につなげると共に、グループホームのあるべき姿や存在意義等を広く地域に周知啓発し、「地域で支えあう」地域ネットワーク作りに取り組んでいる。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員1人ひとり、悩み等抱えてはいるが、仕事とプライベートはきっちり分けて公私混同しないように仕事に取り組んでいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出きる限り利用者のニーズを把握し、本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に取り組んでいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時に、情報交換や要望等を気軽に伝えたり、相談できるよう声掛けしているが、本音で話して頂けているかが不安である。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

個々の利用者の希望や状態に応じたサービスを職員全員で話し合い、安心して、自分らしく暮らし続けていけるよう取り組んでいる。今後も理念に基づいたケアが行えるよう、人材育成等に取り組みケアの質の向上に努める。